



特集

「明治維新150周年と
鹿児島の特産品」

「西郷どん」に学ぶ
モノづくりセミナー
基調講演



【生かしたい食のルーツと
塗り変わる食の地図】

西郷どん が 愛した特産品

明治維新最大の功労者である西郷隆盛は、「敬天愛人」を座右の銘としました。戊辰戦争で朝敵となつた庄内藩を寛大に処遇したのも、きっとこの思いがあつたからでしょう。現在も西郷は山形県の庄内地方で敬慕されています。

そんな庄内地方の鶴岡市は、ガストロノミー（美食）の先進

地。鹿児島市とは姉妹都市で結ばれていますが、同じように文化が豊かな鹿児島も、共に名乗りを上げてもいいのではないかでしょうか。また、同じ庄内地の方の酒田市とも縁があります。現在、豚のトップブランドの一つは酒田市の三元豚ですが、この品種が生まれたのは、鹿児島のバークシャー種と、他の2力所の豚をかけ合わせたのがきつかけなのです。

さらに言うと、山形県のサクランボは薩摩藩の三島通庸（みちづね）が開発しましたし、同じく薩摩藩の前田正名が山梨県令（知事）であつたとき、ぶどうを栽培してワインが生まれました。

鹿児島の人々が全国各地で種をまき、それらが見事に花開いています。それら「食のルーツ」を、ネットワークでつないでいくということも必要なことではないでしょうか。

鹿児島の代表的な特産品の芋焼酎ですが、2011年から東北地方で消費量が飛躍的に伸びました。それはなぜか。そう、東日本大震災です。復旧

現場で働く人たち、例えば鹿児島や宮崎から現地入りしている方が、芋焼酎を飲んで疲れを癒やしたのです。こういう形で食の地図といふのは塗り変わります。歴史の視点で見ると、例えば熊本県の清酒文化が始まつたのは、細川肥後藩のときに醸造を奨励したからですが、これが決定的に定着したのは、今から約140年前に起つた西南戦争がきっかけです。全国から集結した数万人もの兵隊を慰労するためには酒が振る舞われました。もともと清酒文化圏であった熊本県で、酒の需要が急激に高まつたのが理由です。

来年は明治維新150周年という大きな節目で、しかも大河ドラマ「西郷どん」の放送があります。鹿児島の文化を大々的に発信する絶好の機会です。これを逃したら、これ以上ない大きなチャンスを失つてしまうということになりますがねません。「たくさんの人々が移動するときに、食の地図は塗り変わる」という例を申し上げました。

【薩摩の究極ブランド】

奄美はこれから大変可能性がある魅力の高い土地です。例えば、「芭蕉布」は奄美・沖縄地方の特別な衣料です。西郷の2番目の奥さん・愛加那は芭蕉布作りが得意でした。

また、大島紬も高級ブランド化に成功しつつある衣料です。イタリア・ミーノのアパレルの世界で大島紬は絶賛されるという事例があります。龍郷では最高の大島紬のことを「西郷柄」と呼んでいます。「西郷」というのは、薩摩の究極のブランドで、世界ブランドになる可能性も秘めています。また、西郷隆盛は映画「ラストサムライ」のモチーフになった人です。この「ブランド商標をどうやって活用していくのか、今一番大事な時期に来ていると思います。

大河ドラマが「西郷どん」になりますから、この機会に鹿児島のすべてを世界に発信していくましょう。西郷の一生を描き

ますと、鹿児島の良いところが本当に出尽くすと思います。愛加那は芭蕉布を作るのが得意で、すでに先人たちが鹿児島の特徴をPRしていくべきだと思っています。と考えなければいけません。

私はそれを受け継がなければいけないのです。

【新たなヒーローを生み出す】

次々に新しいヒーローを作り出していくことは、鹿児島をPRしていく上でもとても大事なことです。その良い例が小松帯刀や篤姫、五代友厚。最初は誰も知らなかつたんですよ。「天璋院篤姫って誰?」とほとんどどの鹿児島県民が言つていたんですから。五代友厚も「あれはイギリスのスパイじゃ」と鹿児島での評価は低かつたですが、今や堂々たる鹿児島薩摩の偉人になられました。

西郷の親友で、霧島山麓の開拓事業を行った桂久武という

人がいます。西南戦争の際、自分は出征するつもりはなかつたのに、西郷を見送りに行つた際に、自分もそのまま出陣してしましたが、そういう意味では、奄美は芭蕉布を作るのが得意で、すでに先人たちが鹿児島の特徴をPRしていくべきだと思っています。と考えなければいけません。

私はそれを受け継がなければいけないのです。

『商標研修会』 西郷どんに学ぶ

～商標権のいろは話し～

セミナーの第一部は、鹿児島大学の高橋省吾先生による

商標研修会が行われました。

「商標とは」という導入部分では、「ベストライセンス社による“PPAP”的商標出願」や

「フランクミューラーとフランクニーピュ」といった最近話題になつたニュースを例に挙げ、

商標の機能や「動き商標」「音

商標」「位置商標」といった新た

に保護対象に追加された商標

タイプを分かりやすく解説さ

れ、また他人の商標登録を調べることができる無料の検索

システム「特許情報プラット

フォーム(J-PlatPat)」をご紹

介されました。

さらに、商標の模倣がもたらす本物(真正品)への影響や、模倣品対策としての商標登録方法、違反した際の罰則を具体的に解説されました。

そして、商標機能のさらなる活用として、地域ブランド

国立大学法人鹿児島大学
産学官連携推進センター
知的財産部門長 教授

高橋 省吾氏

